

所管部長等名	商工観光部長 山本 道弘
所管課・係名	商工振興課 商業振興係
課長名	宮田 径

評価対象年度	平成23年度
--------	--------

(Plan) 事務事業の計画

事務事業名	商店街活性化事業補助金	「主なる事業の執行状況調」における件名又は事業名	商店街活性化事業補助金	
会計区分	一般会計			
予算の事業名	商店街活性化事業			
事業コード(大-中-小)	23	01	30	
施策の体系 (八代市総合計画の実施計画における位置づけ)	基本目標(章)	第4章 豊かさにとぎわいのあるまち		
	施策の大綱(節)【政策】	②活力ある商工業のまちづくり		
	施策の展開(項)【施策】	①商業の活性化		
	具体的な施策と内容	(1)商業活動の推進		
根拠法令、要綱等	八代市商店街活性化事業補助金交付要綱			
実施手法 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 全部直営 <input type="radio"/> 一部委託 <input type="radio"/> 全部委託 <input checked="" type="radio"/> その他(補助金)	法令による実施義務 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 義務である <input checked="" type="radio"/> 義務ではない	
事業期間	開始年度	合併前	終了年度	未定

(Do) 事務事業の実施

事務事業の概要	目的	<b>対象(誰・何を)</b> 【対象団体】本市の商店街振興組合、商店街振興会及びこれに準ずる商工業者の法人又は団体が市長が適当と認めるもの 【対象活動】商店街単独イベント事業、商店街連合イベント事業、空き店舗活用事業、チャレンジストア事業	<b>成果目標(どのような効果をもたらしたいのか)</b> 魅力ある商店街づくりを促進することにより、本市商店街の活性化を図る。活性化の指標としては、商店街の通行量、売上額の増加とともに空店舗率の改善を目指す。
	内容 (手段、手法等)	1. 商店街単独イベント事業 … 単独の商店街で実施する地域の特色を生かした各種イベントに対する補助。(千日一夜、本町3丁目収穫祭など) 2. 商店街連合イベント事業 … 2以上の商店街の連合体が実施する地域の特色を生かした各種イベントに対する補助。(土曜日など) 3. 空き店舗活用事業 … 空き店舗を活用したコミュニティ機能強化のための事業又は短期イベント等誘致のための事業 4. チャレンジストア事業 … 商店街が、新規出店者を誘致した場合又は既存店舗の魅力創出及び集客力向上を行う場合に補助。	
事業開始時点からこれまでの状況変化等	市内に郊外型のショッピングセンターが進出してくる前までは、イベントを開催することにより新たな顧客を獲得する手法が効果的であったと思われるが、現在は、空き店舗も多く、イベントで集客しても一時的に通行量が増えるだけで、新規顧客を獲得することが難しいため、日常的な活性化にはつながりにくい体質になってきている。一方、コミュニティスペースの整備や学生によるイベントの開催等により学生の来街が増えたり、商店街が自ら活性化に取り組む意識が芽生え、その取り組みがスタートした。		

コスト・成果指標の推移

		単位	22年度決算	23年度決算	24年度予算	25年度見込	26年度見込	27年度見込	
コスト	総事業費	千円	16,324	23,520	27,243	26,050	25,050	24,050	
	事業費(直接経費)	千円	11,774	18,970	22,693	21,500	20,500	19,500	
	財源内訳	国・県支出金	千円						
		使用料・手数料	千円						
		市債	千円						
		その他( )	千円						
		一般財源	千円	11,774	18,970	22,693	21,500	20,500	19,500
	概算人件費(正規職員)	千円	4,550	4,550	4,550	4,550	4,550	4,550	
	正規職員	人	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	
	従事者数	人							
	臨時職員等従事者数	人							

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	22年度実績	23年度実績	24年度見込	25年度計画	26年度計画	27年度計画
	①	通行量	「通行量」は、商店街の活性化を図る指標として、もっとも客観的かつ数値的に測定しやすい。また、過去の実績との比較も可能であることから、指標として設定する。	人	14,119	14,787	14,861	14,935	15,009
②	空店舗率	「空店舗率」は、商店街の活性化を計測する上での客観的な指標である。また、過去の実績との比較も可能であることから、指標として設定する。	%	24.0	18.5	18.1	17.7	17.3	17.0
(記述欄)※数値化できない場合 当事業は、八代市全域の商店街を対象としているが、商店街の規模、制度の活用状況を勘案し、数値目標については、本町1丁目、本町2丁目、本町3丁目、通町の4商店街振興組合の成果をもって指標とする。									

**(Check) 事務事業の自己評価**

事業実施の 妥当性	①	【計画上の位置付け】 事業の目的が上位政策・施策に結び つきますか	A 結びつく B 一部結びつく C 結びつかない	A (現状分析等) 【計画上の位置付け】内閣総理大臣から認定を受けていた八代市中心市街地 活性化基本計画の認定期間は終了となったが、八代市総合計画における「商 業の活性化」の位置付けは変わらず、東日本大震災以降、商店街が担うコミュ ニティ拠点としての役割も見直されていることから、中心市街地に限らず、市内 各地域の拠点として商店街の活性化を図っていくことは、市の政策上も重要な 事業であると考えている。 【市民ニーズ等の状況】本町・通町商店街が作成し、九州経済産業局長の認定 を受けた商店街活性化事業計画では、アンケート調査等を行い、住民ニーズを 反映させていることが認定の条件となっており、認定を受けたことが住民のニー ズを反映している証であると考えている。 【市民が関与する必要性】市は補助を行うだけで、事業自体は民間(商店街) が実施するため、競合することもなく、妥当であると考えている。
	②	【市民ニーズ等の状況】 市民ニーズや社会状況の変化によ り、事業の役割が薄れていませんか	A 薄れていない B 少し薄れている C 薄れている	A
	③	【市が関与する必要性】 市が事業主体であることは妥当 ですか(国・県・民間と競合していませ んか)	A 妥当である B あまり妥当でない C 妥当でない	A
活動内容の 有効性	①	【事業の達成状況】 成果目標の達成状況は順調に推移し ていますか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A (現状分析等) 【達成状況】歩行者・自転車通行量は平成21年から、商店街の売上 額は平成19年から微増傾向を維持しており、順調に成果が得られて いると考えている。
	②	【事業内容の見直し】 成果を向上させるため、事業内容を見 直す余地はありますか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B 【見直し】平成22年度、平成24年度に制度改正を行うなど、必要に応 じて、制度を見直している。今後も、改正した制度の運用状況を見な がら、見直しを行っていく。
実施方法の 効率性	①	【民間委託等】 民間委託、指定管理者制度の導入な どにより、成果を下げずにコストを削 減することは可能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A (現状分析等) 【民間委託等】補助事業なので、民間委託等は適さない。
	②	【他事業との統合・連携】 目的や形態が類似・関連する事業と の統合・連携によりコストの削減は可 能ですか	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A 【他事業との統合・連携】平成23年度までは、「八代市中心市街地活 性化対策事業補助金」という関連する制度もあったが、平成24年度 に、主な内容を当該事業に組み込み、予算も一元化した。
	③	【人件費の見直し】 非常勤職員等による対応その他の方 法により、人件費の削減は可能です か	A できない B 検討の余地あり C 可能である	A 【人件費の見直し】人件費については、補助事業であることもあり、 申請者からの相談や申請後の処理など、必要最低限の事務処理に 係る人件費となっているため、これ以上の削減は難しい。
	④	【受益者負担の適正化】 受益者負担に見直しの余地はありま すか(引上げ・引下げ・新たな負担・廃 止)	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B 【受益者負担の適正化】将来的には、商店街の活性化の状況に応じ て、限度額及び補助率の引き下げなど、受益者負担を見直す余地 がある。

**(Action) 事務事業の方向性と改革改善**

今後の方向性 (該当欄を●)	<input type="radio"/> 不要(廃止) <input type="radio"/> 民間実施 <input type="radio"/> 市による(民間委託の拡大・市民等との協働等) <input checked="" type="radio"/> 市による実施(要改善) <input type="radio"/> 市による実施(現行どおり) <input type="radio"/> 市による実施(規模拡充)	(今後の方向性の理由) 平成22年度の事業仕分けでも指摘を受けていたとおり、イベント補助については、一時的な 効果しか得られないため、日常的に効果が得られる取り組みを推進する方が商店街の活性化 に効果的だと考えられる。 そこで、補助対象を単発のイベントから、継続的なソフト事業に変更し、日頃から、商店街を訪 れたいと思うような魅力を創出していく。
-------------------	---	--

改革改善内容	今後の改革改善の取組と、もたらそうとする効果		改革改善による期待成果																							
	イベント補助だと、イベント当日の集客が期待できるものの、イベントに来る人は、イベ ントが目的であり、買物を目的とした人ではないことから、売上げの増加は期待できない。経 済的に余裕がない昨今、イベントに来たついでに買い物をして帰るという人はかなり少なく なっている。 商店街を活性化させるためには、もっと日常的に商店街を利用する人を増やす必要があり、 そのためには、労力をかけて大きなイベントを1回開催するよりも、度々、商店街に足を 運んでいただく機会をつくることの方が重要である。 そこで、できるだけ、長い期間(もしくは、回数を多く)、効果が引き出せる事業に取り組ん でもらうことで、市民が商店街へ来街する回数を増やしていきたいと考えている。 また、長期間の事業に取り組むことは、商店街がどのような方向性を目指しているのか、 どのようなイメージを打ち出しそうとしているのかを考える機会になり、“まちづくり”に対 する意識向上にも期待している。 そういった効果を引き出すことができれば、さらに、商店街の自主性にも磨きがかかり、 大型店に負けない、個性や魅力のある商店街が形成できるものと考えている。		<table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <td align="center" colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td align="center">削減</td> <td align="center">維持</td> <td align="center">増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td align="center">○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下		
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持																									
	低下																									

外部評価の実施	有：外部評価(市民事業仕分け)	実施年度	平成22年度
---------	-----------------	------	--------

決算審査特別 委員会における 意見等	(委員からの意見等)
--------------------------	------------